

戸頭町会

「本部役員80歳定年制導入」

「お助け隊の活動について」

戸頭町会市政協力員 1 大関 幸作

戸頭町会市政協力員 2 小笠原祥二郎

目次

1. 戸頭町会の概要

(1) 戸頭地区の構成

(2) 戸頭町会の構成

(3) 戸頭町会の組織と運営

2. 本部役員80歳定年制導入

(1) 導入の経緯

(2) 施策と効果

(3) 導入の反省点と今後の課題

3. お助け隊の活動

(1) 導入の経緯

(2) 運営

(3) 作業例

(4) 活動状況

(5) 効果と課題

1. 戸頭町会の概要

(1) 戸頭地区の構成

旧戸頭地区 + 住宅公団（昭和50年頃開発） 開発地域

〔 戸頭団地（戸頭団地自治会）
戸建て住宅（戸頭町会） 〕

(2) 戸頭町会の構成

1) 昭和51年4月に戸建て居住者が設立

2) 地域 縦横 2 km (約4km²)

3) 約3000世帯：7000人 町会加入率38.5%

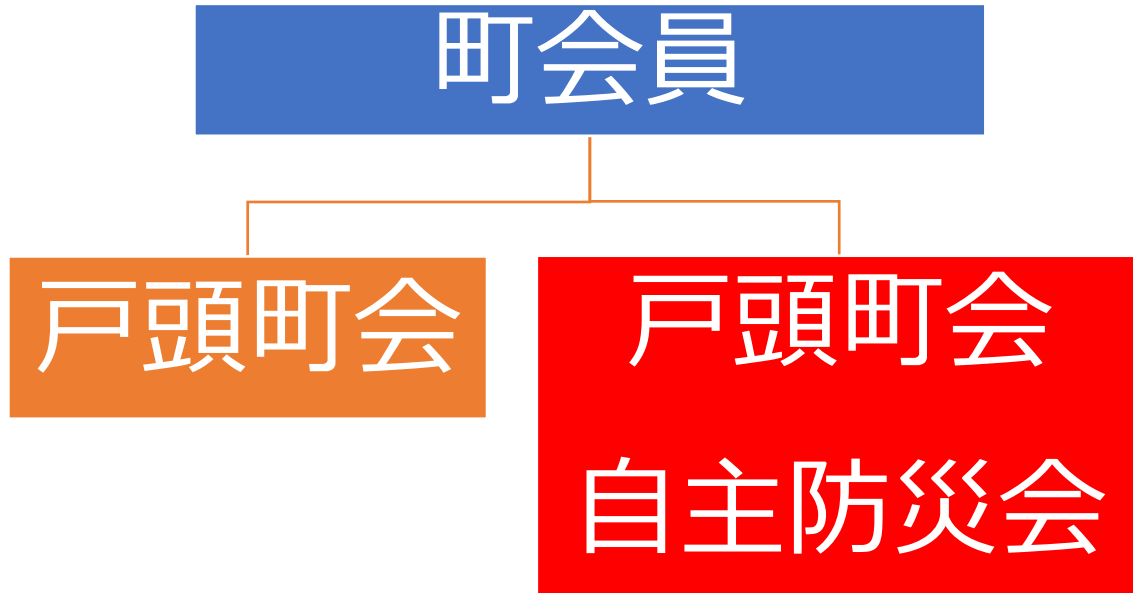
高齢化率 42.7%

戸頭町会マップ



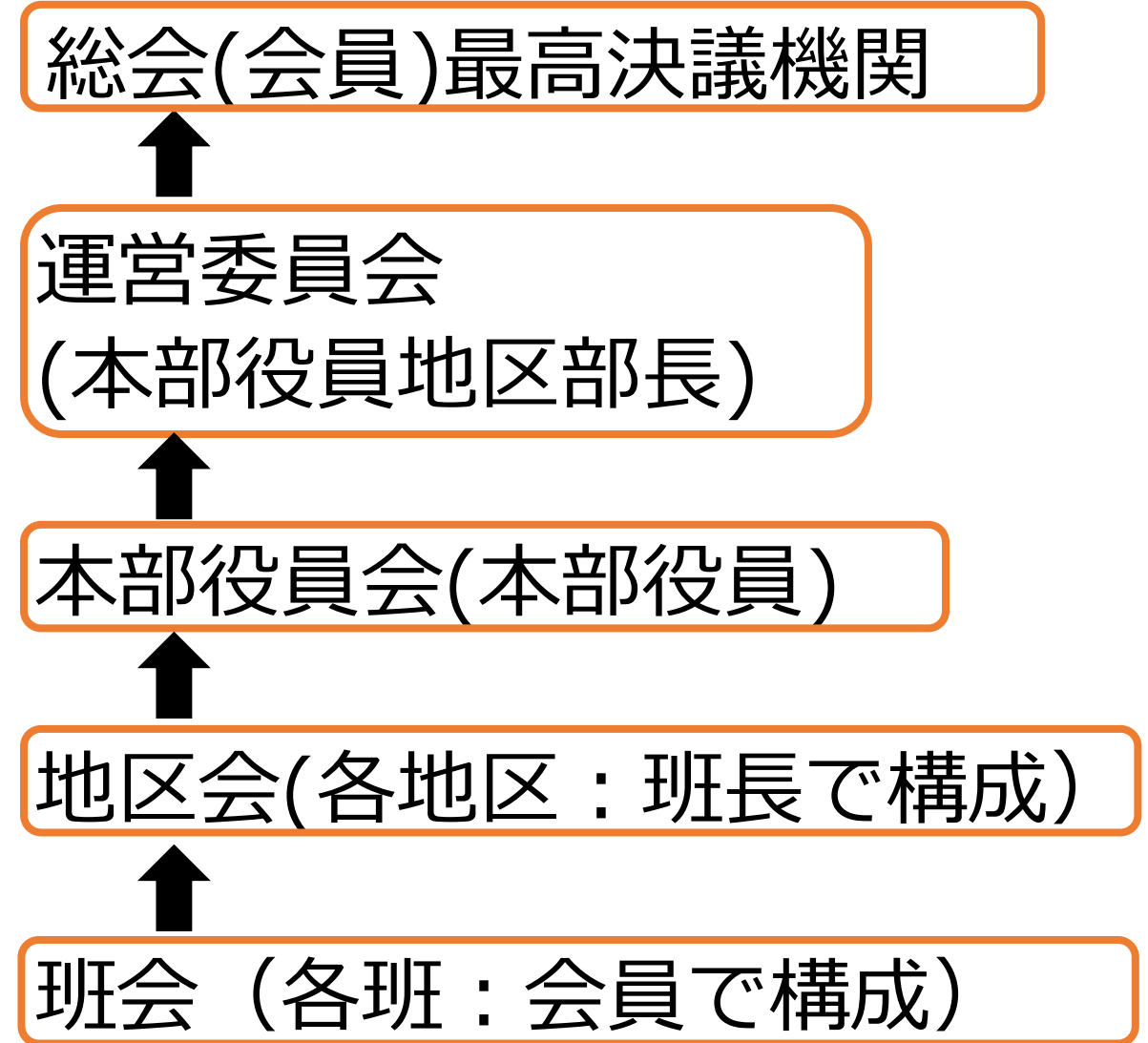
(3) 戸頭町会の組織と運営

1) 組織(つながり)

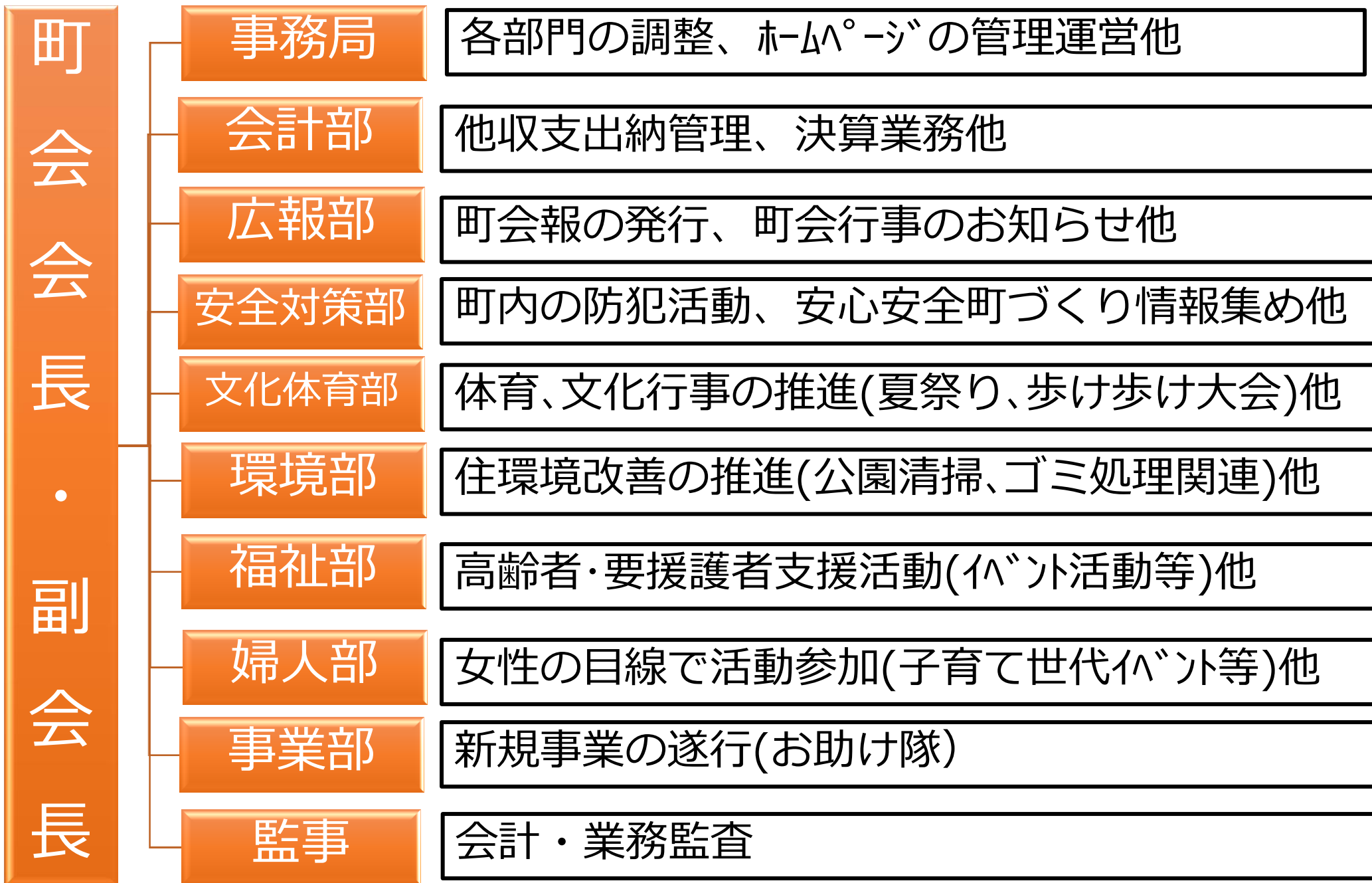


- ① 市政協力員
- ② 廃棄物資源減量推進員

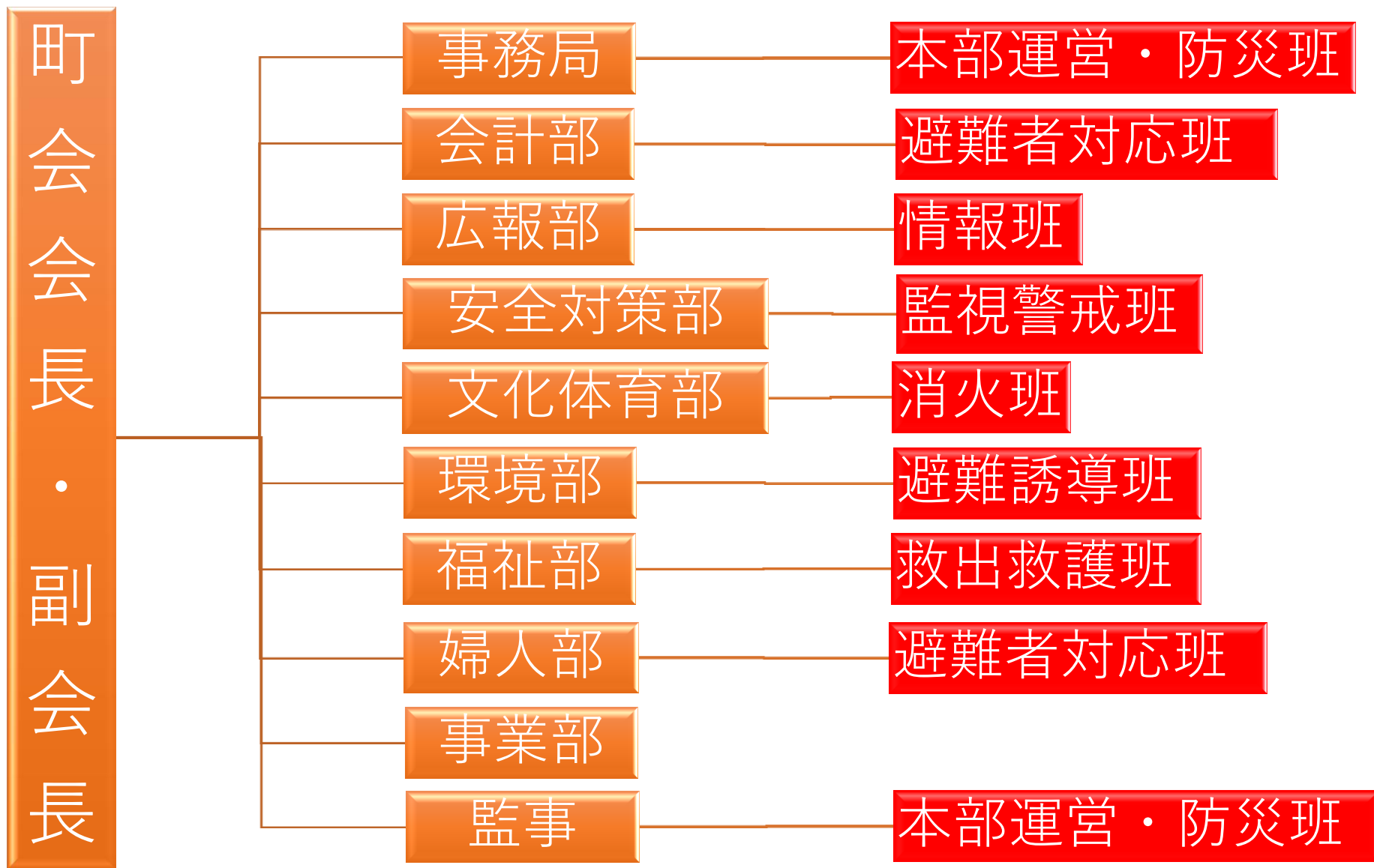
2) 運営 (決議の流れ)



3) 組織



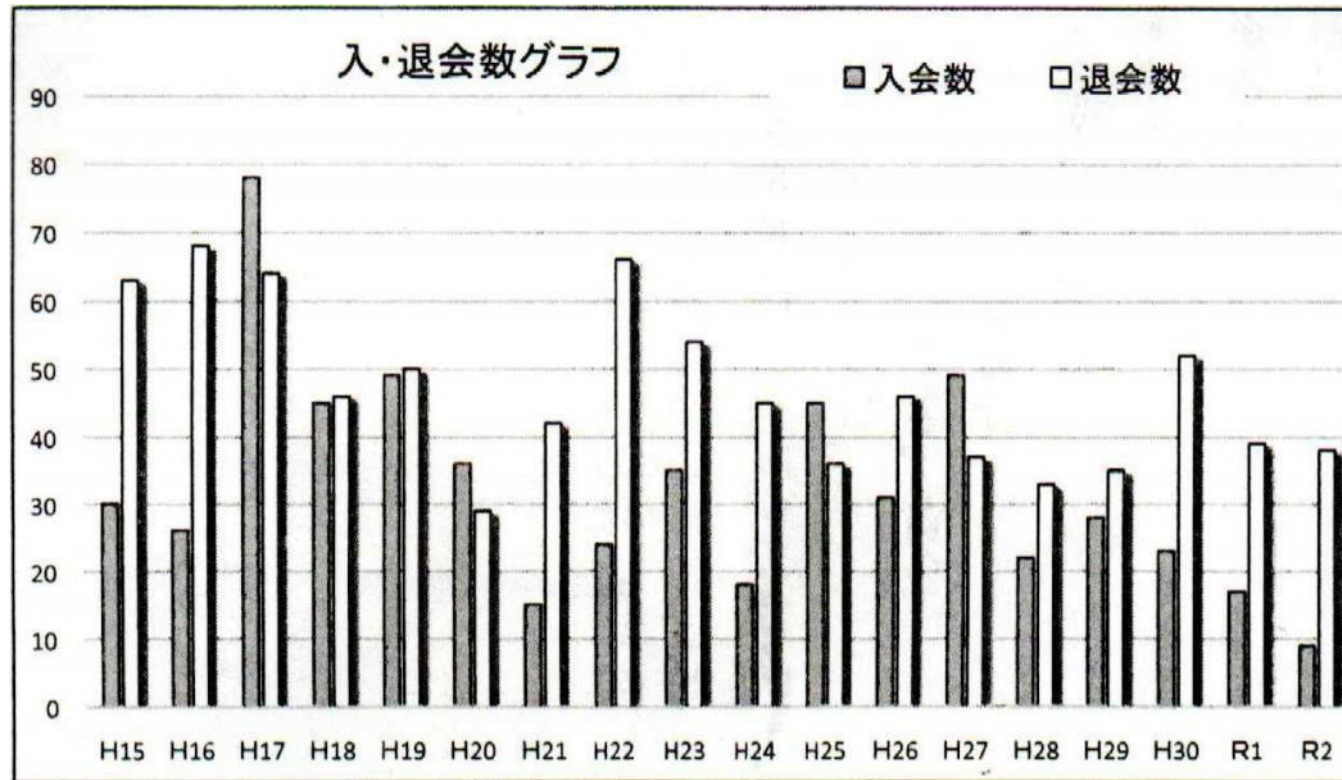
4) 町会組織と自主防災組織の関係



2. 本部役員80歳定年制導入

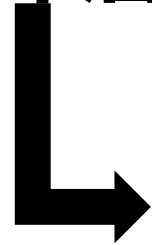
(1) 導入の経緯

- 1) 会員世帯数がほぼ毎年減少、平成15年から令和2年の18年間で263世帯が減少



2) 原因分析・提案

- ① **高齢化による退会者の増加**・町会の役目を果たせない。
- ② **若年層の入会減少**・若者が町から出て行き戻ってこない。
・全てが多様化で町会にメリット感なし。



魅力ある町会への変革が急務

- ① **高齢者と同時に若者世代対応** ・ ・
- ② **運営に発想転換必要**



活動のマンネリ打破



・ ・ 役員若返り



本部役員80歳定年制の導入を提案

3) 新体制へのスタート

- ①令和3年11月 本部役員会で審議、可決承認
- ②令和3年12月 運営委員会で審議、
総会に上程を可決承認
- ③令和4年4月17日の書面総会で承認
- ④令和4年4月17日より新体制がスタート
(新体制)

会長：82歳 ↔ 52歳、副会長3名：80歳代 ↔ 70歳代
専門部長：30歳代～70歳代に若返り。

導入時の苦労話（前会長：大関さん）

< **思い** > 令和元年80歳を迎えるにあたり、本部役員の80歳定年制導入を決意、3年越しに会長職を引き継ぐことができた。

< **状況の変化** > 3年間のやり取り・世間の働き方改革が進む。

当初後任予定者の雇用延長などあり後継者の選出に難航した。

< **受け止め** > 高齢の影響は町会活性化が停滞と共に町民の繋がりが希薄、退会者増にて会員減少が今後も続く。

若返りを強く感じて一気に若返りを模索。

< **行動** >

- ①現役サラリーマンの現古舘会長（町会役員を7~8年歴任）を後継者に推薦、機会あるごとに説得。
- ②現役サラリーマンの会長を補佐する副会長には退職者で70代の町会運営経験豊富なベテランの獲得が必要で組閣案提出を条件に説得。
- ③その他役員の確保に奔走。今後、一緒に協力をする旨伝えて、一気に若返りを図る。
- ④しかし、雇用延長の壁厚く、人材確保(協力者)を充分成しえず。
- ⑤多くの役職を兼任する体制でスタート、

現在、顧問として人材確保に注力と同時に会運営改革に参画。まだまだ、目指す安定した町会体制には至っていない。

(2) 施策と効果

1) 若者向けにホームページの活用推進。

<方針>

- ①若い世代は紙面よりスマホ、タブレット情報。
- ②高齢者は紙面：町会報

<効果>

- ①ホームページを大いに活用すべきの声が挙がる。
- ②ホームページ作成協力申し出があり。

<今後>

町会報と併用してより身近な情報提供を推進。

2) 町会報（年10回発行）の改善

- ①新年号はカラー刷り「町会方針記事掲載」
配布時期を変更、また非会員含めた**全戸配布**。
- ②記事はより町の話題を中心に方向を変更。

<効果>

- ①カラー刷りはインパクトありの声を頂いた。
- ②非会員に「戸頭町会」存在を周知できた。

<今後>

- ①カラー刷りは2回（9月、1月）発行。
- ②地域繋がりに記事を拡大。

3) 子育て世代対象に新しくイベント開催。

- ・若い世代への浸透を促進。



<効果>

- ①若い子育て世代に関心を与えられた。
- ②会員以外の参加もあり、「戸頭町会」の名を広められた。

<今後>

- ・団地自治会や旧戸頭も含んだ地域全体を巻き込んだイベントにする。
- ・子育て世代を対象に多彩なイベントを開催する。

4) とがしら夏まつりの提灯新作し子供たちの名入れ

- ・夏祭りが地域の行事であり、子どもたちにふるさとの思い出を残す。
- ・将来、地域貢献への参画を期待。
 - *今年度、「夏まつりの思い出を伝えたい」と若者が「金魚すくい」を出店。

<効果>

- ・幾分かの効果を感じられるが、浸透しきれていない。

<今後>

- ・継続予定。
- ・3年使用で子供たちに進呈予定。

5) 退会者防止策

- I. 班長免除条件の制定（指針）
- II. 班統廃合の受け入れ（運営員会承認）
- III. 高齢者クラブ「あすなる会」の発足
 - ・グラウンドゴルフの実施（2回/週）
 - ・カラオケ会の実施（3回/月）
 - ・日帰りバス旅行の実施（11月頃/年）
 - ・スマホ学校実施（2回/月/グループ、現在2グループ）
- IV. オレンジカフェの推進（3回/年）
- V. 「ボランティア制度の導入」検討中
 - ・有償、無償に区分して適宜対応。

(3) 導入の反省点と今後の課題

1) 反省点

①新役員の負担増

公募するも応募者無し。

<原因> I. 町会の活動周知が不足。

II. 働き方の多様化で、75歳前後まで働く。

<対策> I. 町会活動の周知を強化。

II. 参加の多様化を推進。

(働き手の参加が容易な仕組み)

②地域との交流に前進がなかった。

地域からの参加を周知できず、活動の活性化に繋がらなかった。

＜原因＞ I. 行事参加への門戸開放が進まなかった。

II. 人手、工数不足で準備不足であった。

* 部門に集中しすぎ。

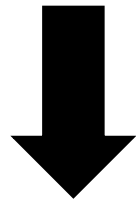
＜対策＞ I. 地域行事への参加呼びかけ、同時に町会行事の門戸開放。

II. 情報の積極的提供。

III. 学校PTAとの交流。

2) 今後の課題

- ①運営に必要な人材をいかに確保するか。
多方面から見た町会運営が必要であり、特に女性役員の登用が急務である。
- ②より開かれた町会をどのように構築するか。



より安全安心な町、より住みよい町、よき故郷と思える町を目指して「戸頭町会」を発展させる。

3. お助け隊の活動について

(1) 導入の経緯

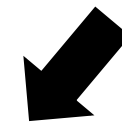
①町の声

- I. 町に高齢者が増える。
- II. 「支援を求める声」
が出始める。



②事業部の活動を模索

- I. 法人組織より事業が可能
- II. 空き缶収集事業撤退から
新事業を模索



家庭内でチョットしたことでも困っている人を支援する。
お助け隊を創設（運営委員会で承認）
事業を令和2年9月、スタート

(2) 運営

有償ボランティアで事業部が統括、窓口は町会事務局

1) 利用対象者：当面、町会員に限定

＊高齢者、一人暮らしの方、身体不自由な方等

2) 作業内容

樹木の剪定・伐採、庭草の手入れ、家具等の移動等

3) お助け隊支援者（隊員）

町会・自主防災役員、防災リーダー、ボランティアなど

現在 15 名登録

4) 利用者負担（作業代）

¥100/10分/人基本

5) 隊員への報酬

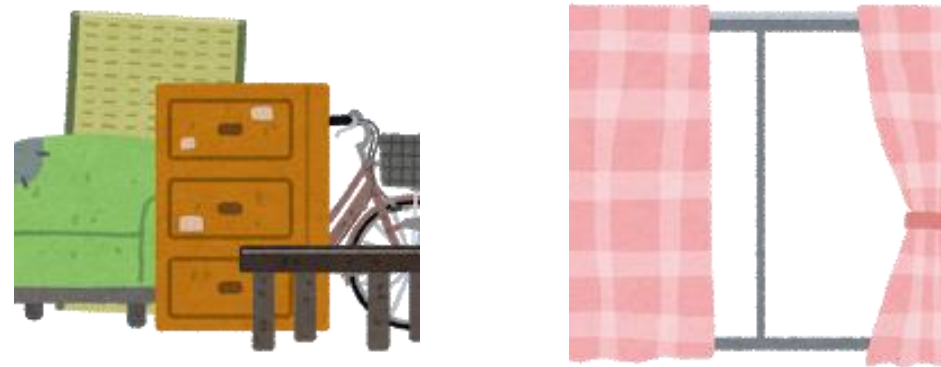
6) ¥500/時間

(3) 作業例

1. 10分程度の作業



2. 30分程度の作業(室内の作業)



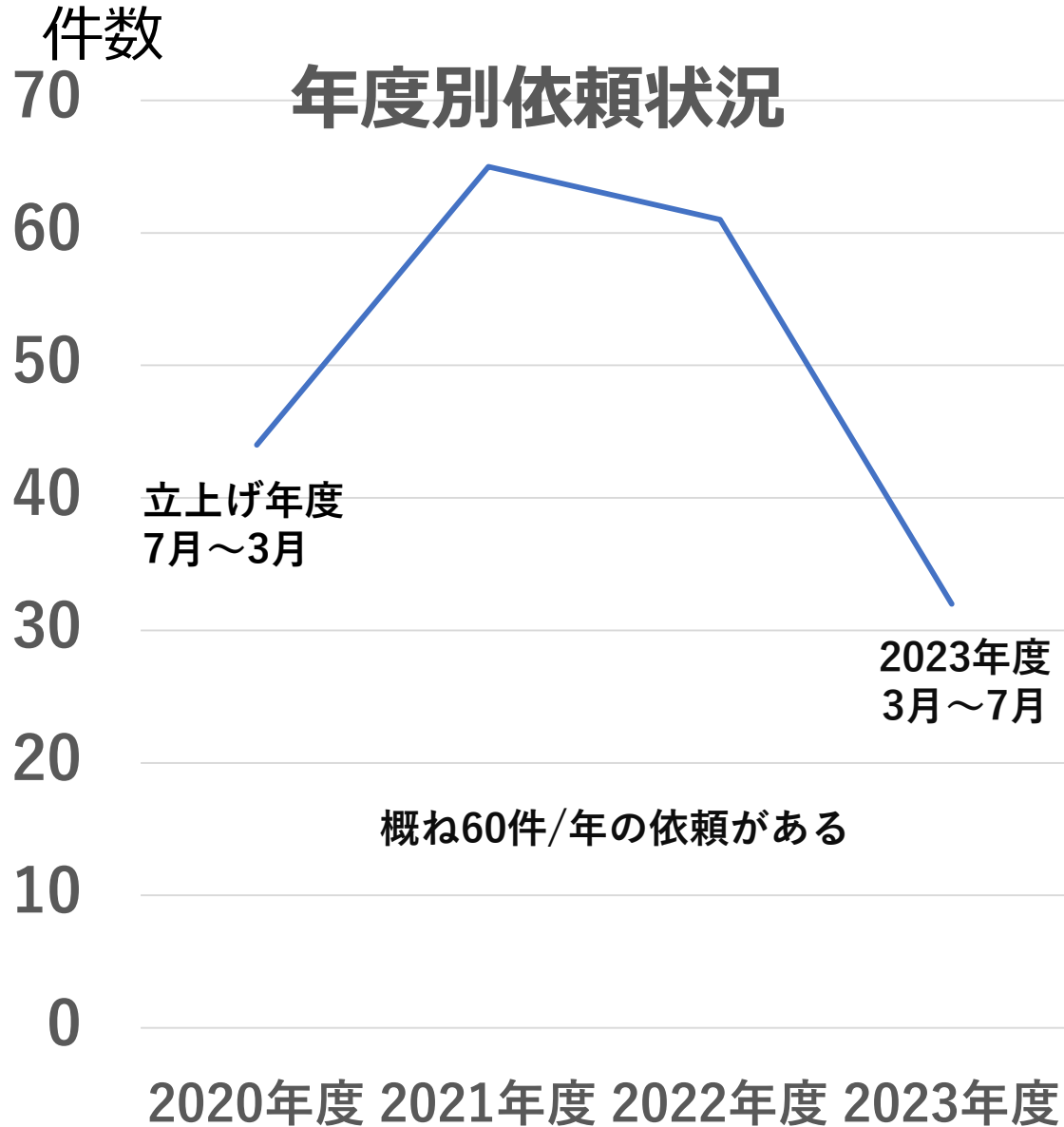
3. 1-2時間の作業(屋外の作業)



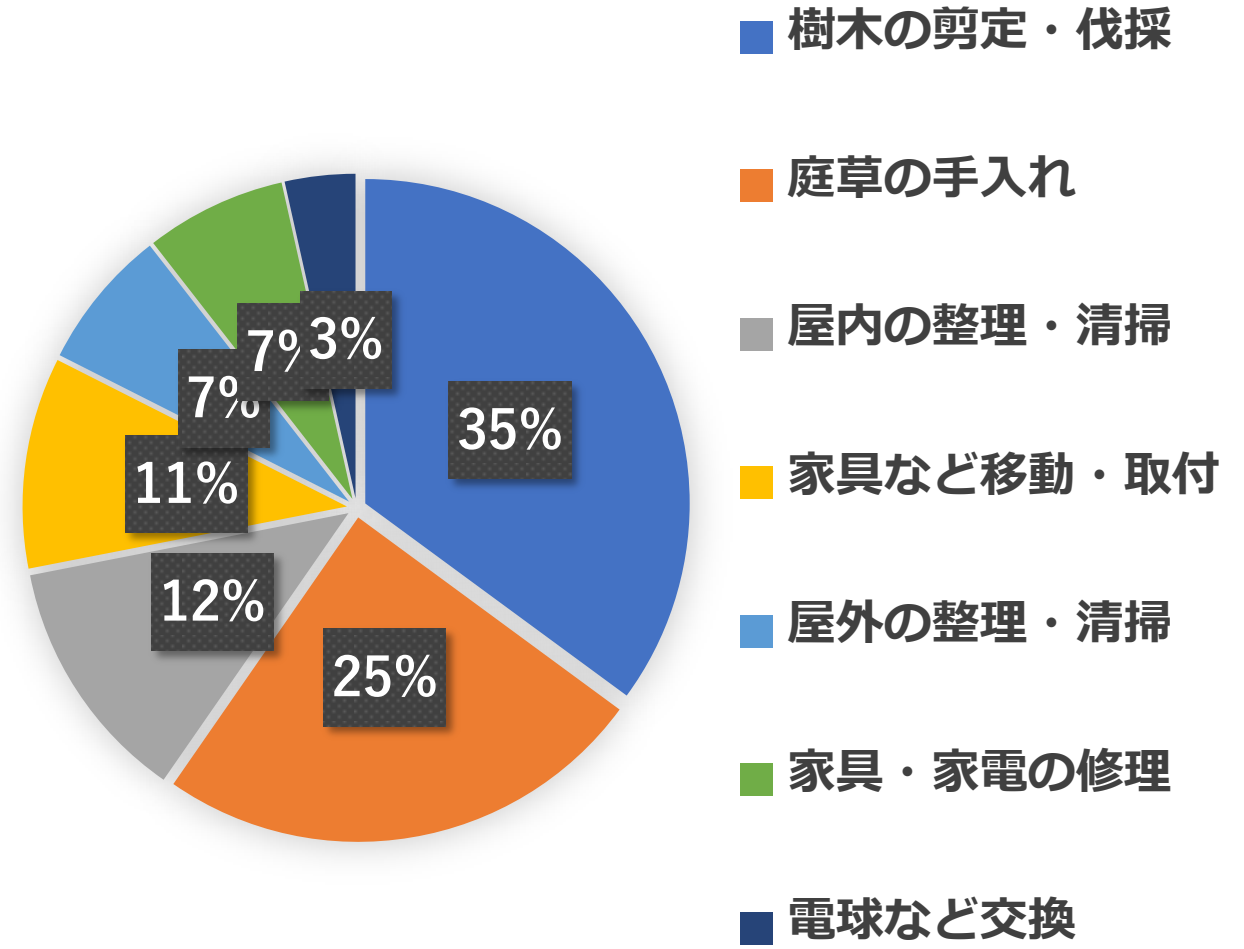
*注① 依頼があった場合、
下見をさせて頂き作業できる
かを判断します。

*注② 剪定・伐採は、おお
むね2. 5m以下であること。

(4) 活動状況



2022年度支援作業内容



依頼内容の60%は庭木の手入れ

(5) 効果と課題

1) 効果

- ①少ない負担で大きな安心を提供できた。
- ②孤独感の解消、地域との繋がりへの1助となった。

2) 課題

- ①隊員の高齢化が進み若い支援者の確保。
- ②依頼者にいかに自助努力を芽生えさせて「生き生き生活」を過ごしていただくか。

ご清聴

ありがとうございました。